Volume 71– 2013 年5 月

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動等を共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ …… 1
- 会員寄稿記事 …… 3
- 会議・イベント案内 …… 9
- 書籍等の紹介 …… 9
- 会員募集中 …… 10

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

『桜のある水辺風景 2013』写真募集中(5/31〆切)

皆様のお手元の写真に「桜のある水辺風景」はありませんでしょうか?

JRRN 事務局では、2013 年に撮影された「桜のある水辺写真」を募集中です(5/31〆切)。JRRN 非会員の方からの応募も歓迎していますので、まだ桜が咲いている地域の皆様、川仲間をお誘い頂き、身近な水辺や旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆様の思いや桜の物語とともに、是非お送り下さい。

全国の春の水辺で切り取られた皆様の大切な一枚、お待ちしています。

(JRRN 事務局・後藤勝洋)

○テーマ: 「桜のある水辺風景 2013」 *※2013 年に撮影された写真に限定させて頂きます*

○応募資格: JRRN 会員、非会員 問わず、ご応募をお待ちしております。

○作品規定:
- 応募はお一人何点でも可能です。ただし応募作品は自ら撮影したものに限ります。
- 写真サイズはハガキサイズ程度の印刷でも鮮明なレベルとします。
- 個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

○応募方法: 別紙※の「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、氏名、住所、電話、Email アドレス、写真利用時の個人情報開示条件、作品への思い等をご記入の上、写真と共に以下応募先へ送付下さい。(デジタル画像の場合は応募シートと共に電子メールにて、オリジナル写真の場合は応募シートを同封し郵送願います)

※別紙応募シート:http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2013form.doc

○応募〆切: **平成 25 年 5 月 31 日(金)**

○応募作品の取扱いについて:
- 応募期間終了後に、JRRN ニュースレターや「応募写真集」上にてご紹介させて頂きます。
- (撮影者に事前にご連絡の上で) JRRN 刊行物やウェブサイト等で無償で使用させて頂きます。
- 応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

○応募先: 〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階
公益財団法人リバーフロント研究所内 JRRN 事務局 (Email: info@a-rr.net)

○問合せ: JRRN 事務局 担当: 後藤・和田(E-mail: info@a-rr.net Tel: 03-6228-3862)

※「桜のある水辺風景 2013」応募要領はコチラ: http://jp.a-rr.net/jp/news/info/264.html

※『桜のある水辺風景 2012』はコチラ(PDF 5.6MB)
http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/files/2012/06/JRRNsakura2012report.pdf

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

「東京ホタル ひかりのシンフォニー - TOKYO HOTARU FESTIVAL 2013」 5/25(土)に隅田川で開催

「もし、隅田川にホタルがいたなら」という思いを込め、約 10 万個の太陽光蓄電 LED『いのり星』を隅田川に放流する「東京ホタル TOKYO HOTARU FESTIVAL 2013」が、本年は 2013 年 5 月 25 日（土）に開催されます。

本行事は、「水と緑の回廊で包まれた美しい東京」を再生するため、隅田川エリアを五感で楽しみ、「川と暮らすこと、新しい親水ライフ、川や環境との共生」をテーマに、"隅田川ルネサンス事業"の一環で昨年から開催されているものです。

JRRN は、本行事の協力団体の一員として、東京の母なる川・隅田川の魅力を、さらに日本が培った河川再生に関わる素晴らしい技術や経験を、国内外に広く伝えていくことに貢献してまいります。

「東京ホタル」ホームページはこちら
http://tokyo-hotaru.jp/

（JRRN 事務局・和田彰）

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

欧州河川再生手引き「Rivers by Design: Rethinking development and river restoration」発行案内

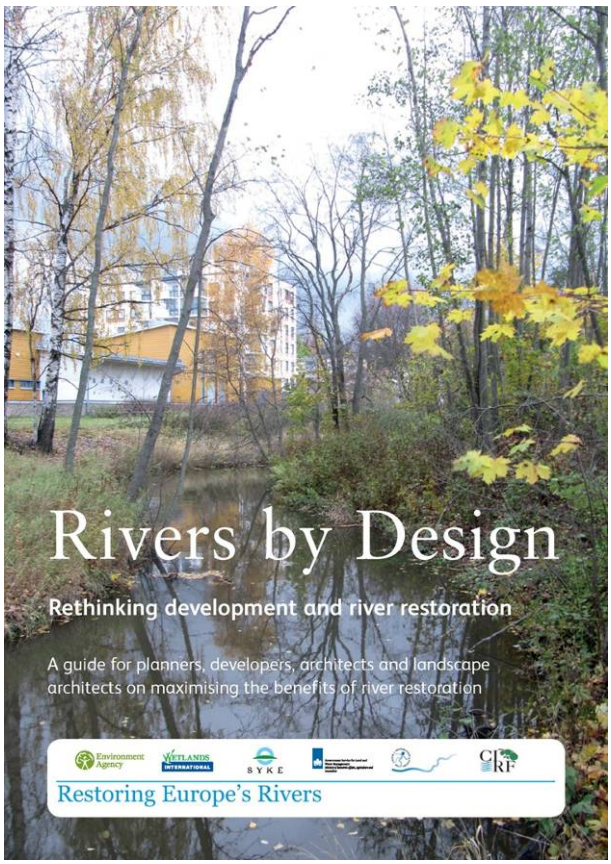
ヨーロッパにおける河川再生の知見を共有し、河川再生事業の更なる推進を図ることを目的に実施されている「RESTORE プロジェクト」より、最新の河川再生手引き『Rivers by Design: Rethinking development and river restoration』発行の案内が届きました。（英語版・約 40 ページ）

※RESTORE：http://www.restorerivers.eu/

河川再生事業に取り組む上での基本的な考え方、また欧州を中心に諸外国の河川再生事例が分かりやすく紹介されており、電子版（PDF 版）を無料でダウンロードすることができますので、ご活用下さい。

【目次】（JRRN 事務局の暫定訳）

1. はじめに
2. 手引きの対象者、利用者にどのように役立つか
3. 河川再生とは、またその必要性
4. 私たちの河川を再生することの便益
5. 法令について
6. 経済価値と河川再生事業への投資について
7. 河川再生を始めるにあたって
8. どのようなレベルに到達したいのか？
9. 計画立案に向けた住民参加
10. 持続可能な再生事業計画の立案
11. 効果的な再生事業の推進
12. 優れた経験の共有について
13. 世界の河川再生事例集
（欧州 7 事例及び韓国 1 事例）



※「Rivers by Design」ダウンロードはこちら
http://jp.a-rr.net/jp/resources/guideline/158.html

（JRRN 事務局・和田彰）

東京都 石神井川 水質改善実験中！

寄稿者：大堀照生　（イービストレード(株）環境事業部・JRRN 団体会員）

【１】水質改善実験開始

石神井川は東京都小平市を起点に西東京市、練馬区、板橋区の都内を巡り、北区の堀船 3 丁目付近で隅田川へ合流する都内の代表的一級河川の一つです。

川の終点エリアである、東京都北区、JR 王子駅前の石神井川において、３月２２日より水質改善実験が始まりました。

JR王子駅前横断幕

【２】実験の背景

実験地域では、桜の咲く時期になると、スカム、悪臭が発生し、近隣の方々を悩ませています。

スカムとは、嫌気性分解された川底の有機物が、水面に浮上してきた物です。石神井川のように、川の流れが穏やかで溶存酸素の少ない河川の川底では、酸素を必要としない嫌気性微生物によっての分解が盛んになり、反対に有機物を酸化分解してくれる好気性微生物による分解が少なくなります。これが石神井川のスカム発生の要因です。

スカム発生の瞬間

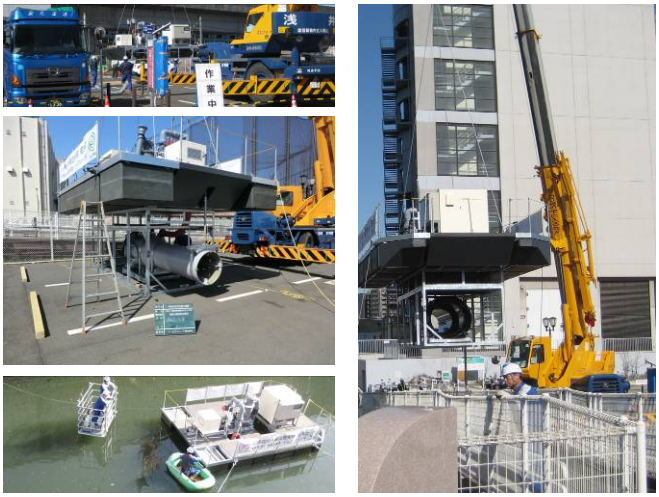
スカム大量発生

スカムが川の表面を覆うと、水中に酸素が届きにくくなり、ますます低層の酸素が不足し、新たなスカム発生へと繋がっていきます。

しかも、スカム発生時には硫化水素等の悪臭が発生する為、川のまわり、時には JR 王子駅までにも臭いが漂います。

この問題に対して、東京都では、ポンプ車によるスカム吸い上げや底泥の浚渫、地元の北区は消臭剤、高濃度酸素水の注入等、様々な方法で対策を講じてきました。

そして、昨年、北区は新たな装置を解決策として試験導入しました。それがジェット・ストリーマーという水質改善装置です。２年目となる本年の実証実験ではジェット・ストリーマーの機能をさらに進化させた、‘イーストリーマー’が導入され、石神井川の水質改善を行っています。



イーストリーマー設置

【３】イーストリーマー（ＥＳＴ）

イーストリーマー（以下ＥＳＴ）は溶存酸素濃度の高い表層の水を噴流ポンプの駆動水として、底層にジェット水流を起こす装置です。酸素が水中に行き渡ることで、有機物が好気性分解されやすくなり、スカム、悪臭の発生をおさえることができます。薬剤等は一切使わず、好気性分解という川本来が持つ力を、「流動」によって促進することができるのがこの装置の特徴です。

また、ＥＳＴを稼動させると、①低エネルギーで大量の水を動かし、②底層の低溶存酸素水塊を短時間の内に解消させ、③水質の改善と、底質の改善をする。等の効果が期待できます。

イーストリーマー

【４】効果検証

水質改善装置の効果はいかなるものか。実際にデータを測定、検証しました。装置より、０ｍ、５ｍ、１０ｍ、２５ｍ、５０ｍ、８０ｍ、２００ｍ地点で、表層から底層の溶存酸素量等を細かく測定したところ、稼動前には表層と底層の２層に別れ、底層の酸素量は０．２ｍｇ／ｌと極端な貧酸素状態にあり、スカムの発生及び悪臭がありましたが、稼働２２時間後には対象の水域全体にて底層の酸素量が２～３ｍｇ／ｌまで回復し、以後、新たなスカムの発生は見られませんでした。

長年、近隣住民を悩ませていた、スカムによる悪臭や景観障害に対し一定の効果を確認しました。

その後、定期的に目視による石神井川の観察を続けていますが、スカムの発生はほとんど見られず、悪臭もありません。記録写真を撮影していると、近隣の方から「綺麗になった」、「臭いがしなくなった」等のコメントを頂くこともあります。

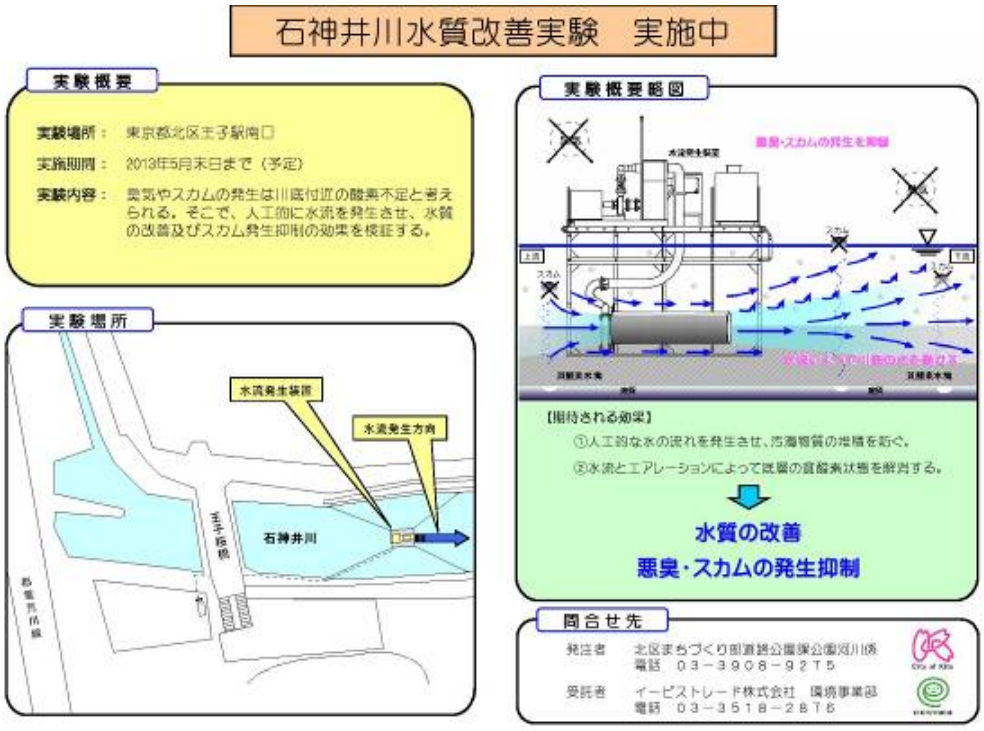
【５】今後の活動

実験終了予定の２０１４年３月まで、北区と連携しながら石神井川の水質改善を推進し、スカム、悪臭の防止対策を行っていきます。

また、現在、東京都のオリンピック招致活動によって、都内環境・設備に人々からの注目が集まり、水質問題にも今まで以上に目が向けられ始めています。都内各所で水質改善対策がしっかりと取り組まれるよう、またその際に、イーストリーマーがお役に立てるよう、美しい河川実現に向けて活動を行っていきます。

またさらには、全国で起こっている、スカム、アオコ、赤潮等の様々な水質問題への解決策として、イーストリーマーが万全に機能できるよう、より一層の装置の進化を目指していきます。

※　装置に関する詳細につきましては、下記 URL をご参照下さい。
イービストレード(株) 環境事業部
http://www.ebistrade.com/environment



現地設置看板

川系男子の『川と人』めぐり No. 13～巴波川(うずま)ほか～

坂本貴啓（筑波大学大学院 システム情報工学研究科　博士後期課程　白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』めぐり　研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪蔓の波と雲の波　重なる波の中空を～
♪橘かおる朝風に　高く泳ぐや、鯉のぼり～

（『鯉のぼり』，文部省唱歌（5 年），作詞・作曲不詳）

表１　フィールドトリップの主な行程

9:05	筑波大学発
10:05	備前掘着
11:20	備前掘発
12:45	釜川（田川合流点）着
13:05	釜川（田川合流点）発
14:10	釜川着
14:40	釜川発
15:40	巴波川着
16:20	巴波川発
18:25	筑波大学着

１．五月晴れのフィールドトリップ

この時期になると，田園のあちらこちらで鯉のぼりが気持ちよさそうに空を泳いでいるのを目にする．鯉のぼりも泳ぎだしたくなるような晴天の 2013 年 4 月 27 日に研究室のメンバー11 名でお出かけ．

白川研『川と人』ゼミでは，毎年の恒例行事として，毎月フィールドトリップと名のつく川めぐりが行われる．みんなで近くの川を見て周るのだが，ゼミ生同士の親睦を深めるのは，どんな飲み会よりも川を見るのが一番効果的．特にこの時期，新しい国際系の 3 年生と工学系の 4 年生のメンバーを迎え，新メンバーの信頼関係を築く上でも大事な行事だ．

グー，チョキ，パーで車割をして，まだ慣れない者同士同乗しながら出発．

今年度第 1 回目のフィールドトリップは『まちづくりと水路』がテーマ．主な行き先としては，備前掘（水戸市），釜川（宇都宮市），巴波川（栃木市）．ゼミ内で遠賀川の堀川の川づくりについて考えている最中ということもあり，水路や運河などとして有名な事例をみて，遠賀堀川の河川デザインのヒントを得ることにした．

図１　備前掘の開放的な水路景観

図２　桜川の柳堤堰（ゴム堰）

２．備前守がつくった掘割

大学を出発し，水戸市備前掘へ．備前掘（**図１**）は灌漑用水路で，農業用水の確保と千波湖の洪水防止を目的に建設された水路である．初代藩主の徳川頼房の命を受けた備前守，伊奈忠次により建設されたところからこの名所がついたという．（水戸観光協会 HP より；http://www.mitokoumon.com/shisetsu/siseki/bizenbori.html）

伊奈忠次について調べてみると，彼は三河国（現

図３　水際付近の様子

図４　街中を流れる釜川

在の愛知県西尾市）に生まれた．徳川家康が江戸幕府を開いてからは武蔵国（現在の埼玉県北足立郡伊奈町）で一万石を与えられ，『備前守』となった．

あの利根川東遷事業にも参加しており，荒川と利根川の分離などで顕著な功績を残している．

関東各所に備前掘川や備前堤，備前渠などの運河，堤防が残っており，関東の新田開発はこの人の功績も大きいと言っていいだろう．

現地に行った時はこの銅像の人誰だろうと思っていたが，この堀の功労者だったとは．

柳並木の備前掘は歩くと情緒に溢れている．木が川沿いに連なっているだけでどこかほっとできる空間が広がっている．川沿いにはフェンスが無く，足元に低い瓦の塀がある程度で開放感がある．時々船着き場のような階段も親水性を高めている．こういう水辺は歩いていて気持ちがいい．備前掘を上流に向けて歩いていくと，水門に差し掛かった．備前掘の水源は桜川（那珂川水系）で，柳堤堰から取水している．柳堤堰は空気を入れて膨らませたゴムで水を貯めるゴム堰になっている（**図２**）．今まで見たゴム堰の中でも圧倒的に大きい（堰高 4.2m，堰延長 32.5m）．堰からの水の越流にも迫力がある．柳堤堰から取り入れられる水量は最大 3.2m^{3}で，1,550ha の水田を灌漑することができる（出典；関東農政局 那珂川農業水利事業所技術検討委員会資料，2012.）

ここでの目的はあくまで灌漑用水であるが，まちの中を水が流れるだけでまちに情緒が溢れる．遠賀堀川のことを思い起こしながら，ここでは水辺の並木，フェンス無しの白壁，川からの潤沢な灌漑用水の流れる景観にヒントを得た．

３．宇都宮の母なる川（田川）

備前掘を見学し終え，水戸市を後にし，宇都宮市へ．車窓に見える新緑の若葉，水を張った水田がまぶしい．

宇都宮に着き，最初に向かったのは田川．ちょうど釜川が合流してきている場所だ．合流直前の釜川は水面と堤防との落差が大きすぎて水辺に近づけない．水面との高低差も親水性の評価ポイントとしては大事なポイントだ．少し残念な箇所．

釜川合流後の田川の河川敷付近を 11 人で歩く（**図３**）．いや，よく数えると 12 人いる！？よくよく見ると集団の中で明らかに身長が違う小さな子が一人．いつの間にか子どもが紛れ込んでいる．それにしても前からいたように集団に溶け込んでいて，楽しそうに話している．「僕ね！この川のことなら誰よりも詳しいよ！虫も魚もどこにいるか一番知ってる．毎日ここに来てるもん！」大した少年だ！「泳ぎ方だって，空の飛び方だって知ってるよ．時々変わったことを言うユーモアさ．次の箇所に行くため少年とお別れ．「また来る？絶対だよ！僕いつもここにいるから.」後からふと思ったのだが，突然現れた不思議な少年，もしかしたら，田川の神様だったかもしれない．田川の神様，また今度遊びに行きます．

４．二層になって流れる釜川

宇都宮市内で餃子を食べたあと川めぐり再開．今度は釜川を遡り，中心市街地付近へ．

先ほどの釜川の周辺とは大きく違っていて，水辺に賑わいがある．川沿いのベンチ，屋根付きの橋，岩や植木を水際いっぱいにあしらった庭園風のつくりなど歩いているだけで飽きない．水際をよく見ると先ほどの釜川合流点付近のような水面との高低差はなく，階段を数段降りれば水にも触れられ，小川のような感じだ．川幅は大して変わらないのになぜなのか．釜川には画期的な仕掛けある．それは表層と地下を流れる水の二層構造の川（**図４**）．川の下に別の川を交差させて通す逆サイフォンのような構造はよくあるが，川の下に同じように並行して川を流している事例は全国的にも珍しい．

表層には小川のような水に親しめる程度の水しか流れておらず，余分な大半の水は地下に落ちて流れる治水専用となっている．下流部で一層となり，田川へ合流する．すなわち釜川河口付近で水面との高低差が大きかったように，本来は水面の遠い川だった．1985 年着工の 2 層河川化により，ここまで変わった．川が中

図５　色鮮やかな鯉のぼりの大群が泳ぐ巴波川

図６　巴波川と親水空間

心街の通りの中心になっていて，まちと一体感がある．ベンチで本を読む学生，あずま屋で昼寝するおじさん，川沿いを行き交う家族連れなどそれぞれが河川空間を楽しんでいる．

ここでは水際の近さ，川を中心とした道，水辺付近の屋根付きの橋，ベンチ，モニュメントなど憩いの空間に都市河川の川づくりのヒントを得た．

５．鯉のぼりも泳ぎたくなる巴波川

釜川を見学し終えて，宇都宮を後にし，栃木市の巴波川へ．ここに行ってみたいと思ったのは JRRN が発行している『よみがえる川』で巴波川が写真とともに紹介されているのを見たため．

（http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNyomigaerukawa.pdf：よみがえる川，p29）

川幅が広く，ゆったりと流れる様子，石垣風の堤防，水際の石の小道，円形の階段を常時流れ落ちる水などを実際に見てみたいと思っていた．

巴波公園に車を止めて，しばし散策．4 月から新しく加わったゼミ生の一人は栃木出身で，このあたりは通学路だったそうで，「まさか川をみるためにここに来るとは思いもしませんでした.」と驚いていた．僕も経験があるが，地元の川をよその人と一緒に歩くと，どこか客観視して川を視るので，今まで当たり前に感じていたところに新たな発見があり，印象が変わることがある．彼が高校時代と今日の川歩きとで巴波川に対する見方がどう変わったか興味深い．

川沿いを歩くと，河道の空一面に何百匹もの鯉のぼりが泳いでいる（図５）．黒，赤，青だけでは少しさびしいと感じる鯉のぼりだが，ここでは緑，紫，オレンジも加わり，色鮮やかに泳いでいる．川の中の中にはコイが泳いでいて，泳いだあとにできる波で水面に映った色鮮やかな鯉のぼりが混ざりあっている．たった鯉のぼりがロープで張られているだけだが，季節感が感じられて思わずシャッターを切りたくなる．川沿いの道に並ぶ白壁の家や柳，水面に浮かぶ小舟が川の風情を演出している．これの風景を目当てに GW の行楽を楽しむ人もいるので，遠賀堀川への導入も一考する価値がありそうだ．

少し下流へ行くと，『よみがえる川』に掲載されていた写真と同じ場所に（図６）．円形階段から常時滴り落ちる水は親水演出の一つだろう．また茶色の石垣が川に穏やかさを与えている．

穏やかで写真を見た瞬間から好きになった川なのだが，一点だけ残念なのは，コイの放流．近年，親水演出の一つとして，コイを放流して，川を見る人の目を楽しませようと敢えて放流を行っていることがある．コイは雑食性で何でも食べてしまうため，他の魚種の卵，水草なども消失する．しかもあれだけの巨体の魚がたくさん泳いでいたら川の中は貧相になり，川はただの水の流れる水路のように弱体化し，エサをまいて楽しむ庭園の池と変わらない状態になる可能性がある．魚の放流はコイよりも鯉のぼりの方がふさわしいだろう．

６．川はまちを元気にする

いくつかの工夫がなされた川や水路をめぐったが，どの川の側もまちが活き活きしていた．都市の中にはまだまだ課題の残る川は多いが，こんな事例が増えていけば川とともにまちも変わって行くだろう．

【筆者について】
坂本 貴啓（さかもと たかあき）
1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを　夢みている。
筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りはプールで泳ぎの練習をすること。

水辺からのメッセージ No.48

岡村幸二（JRRN 会員）

内水面の静寂空間：
六郷水門を起点に舟だまりや多摩川の堤防が広がる開放的な空間

撮影：2012 年 3 月（東京都・大田区南六郷）

◆多摩川にそそぐ六郷川の入江

現在の狛江市、世田谷区から続いていた六郷用水の大半は埋め立てられましたが、水門手前の舟だまりだけは今も残されています。昭和 6 年（1931）に完成した六郷水門は地域のランドマークとして用水の歴史を今に伝える歴史的土木遺産です。多摩川の「表側」と六郷用水の「内側」が寄り添う魅力的な河川空間となっています。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内　（2013 年 5 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（国内の河川・流域再生に関する主なイベント）

■ミツカン水の文化センター第１１回里川文化塾『演習林で学ぶ〈森と水〉』
○日時：2013 年 5 月 11 日（土）10：00～15：30
○主催：ミツカン水の文化センター
○場所：東京農業大学・奥多摩演習林等
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1199.html

■第 179 回 河川文化を語る会『エコトイレの神様奮闘記-自然循環式 eco トイレと途上国の水環境-』
○日時：2013 年 5 月 25 日（土）14:00～16:00
○講師：佐伯昭夫氏　（特定非営利活動法人 シャンティ山口　事務局長理事）
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：山口県旧県議会議事堂１Ｆ「夢交流ホール」
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1176.html

■隅田川ルネサンス「『東京ホタル』ひかりのシンフォニー」
○日時：2013 年 5 月 25 日（土）　18:30～21:00
○主催：東京ホタル実行委員会
○場所：隅田川テラス（桜橋～吾妻橋間）　他
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1642.html

■第十二回「琵琶湖外来魚駆除の日」
○日時：2013 年 5 月 26 日（日）10：00～16：00
○主催：琵琶湖を戻す会
○場所：草津市烏丸半島多目的広場
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1660.html

■2013 年度河川技術に関するシンポジウム
○日時：2013 年 6 月 6 日（木）～7 日（金）
○主催：土木学会水工学委員会河川部会
○場所：東京大学農学部 弥生講堂
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1602.html

■第 6 回　いい川・いい川づくりワークショップ
○日時：2013 年 11 月 2 日(土)～11 月 3 日(日)
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1635.html

皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！
全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN 事務局）

（海外の河川・流域再生に関する主なイベント）

- 2013.9.2-5　(京都/日本)　2th International Symposium on River Sedimentation
- 2013.9.8-13　(成都/中国)　35th IAHR World Congress
- 2013.9.11　(ウィーン/オーストリア)　RESTORE conference, European river prize
- 2013.9.11-13　(ウィーン/オーストリア)　5th European River Restoration Conference
- 2013.9.16-22　(ウッチ/ポーランド)　Ecohydrology, Biotechnology & Engineering
- 2013.9.23-26　(ブリスベン/豪州)　16th International Riversymposium
- 2014.2.24-27　(パース/豪州)　35th Hydrology and Water Resources Symposium

書籍等の紹介

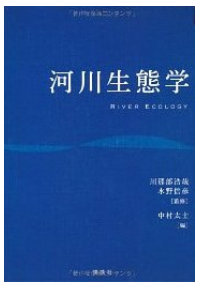
■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き（2012.11 発刊）

・発行：ARRN, JRRN
・監修：白川直樹　筑波大学システム情報系　准教授
・翻訳：JRRN 会員ボランティア（10 名）
・編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ等

※本冊子の入手方法
本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）後にお申込下さい。
info@a-rr.net　/ 電話：03-6228-3862

■ 河川生態学（2013.1 発刊）

・ 編集：中村 太士
・ 出 版 社：講談社
・ 発行年月：2013 年 1 月
・ 価　　格：￥ 6,090 円（税込）
・ ＩＳＢＮ ：978-4061552326



本書は、40 年前に発刊された「河川の生態学」をルーツに、その後の河川生態分野の最新知見を盛り込み、新たな本分野のバイブルとして最前線の研究者達により共同執筆された専門書。河川生態系の復元に関わる考えや事例も紹介されています。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。

市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

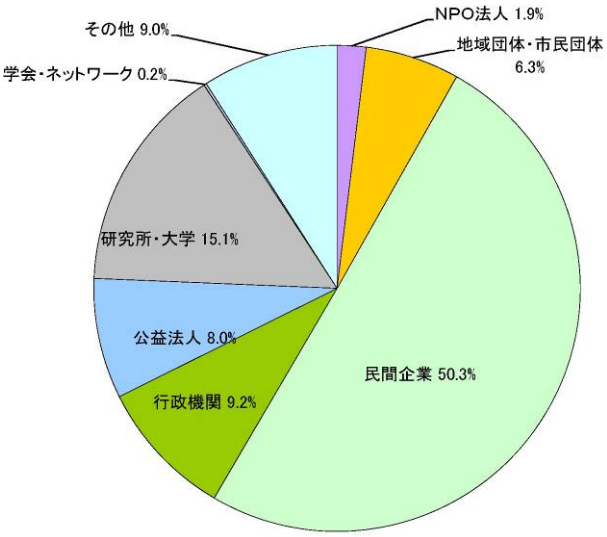
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2013 年 4 月 30 日時点の個人会員構成
（個人会員数：611 名、団体会員数：51 団体）

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照： http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局
公益財団法人リバーフロント研究所　内
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階
Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net　URL: http://www.a-rr.net/jp/

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　株式会社建設技術研究所 国土文化研究所